

令和3年度 第2回羽黒地域振興懇談会 会議概要

- 1 日時 令和4年3月25日（金）午後3時30分～午後5時
- 2 場所 広瀬地区地域活動センター 講堂
- 3 出席者 委員 田村廣実委員、勝木正人委員、堀誠委員、丸山典由喜委員、榎本トヨ委員、百瀬清昭委員、山本興治委員、小南孝子委員、三浦美津子委員
庁舎 支所長 伊藤義明、市民福祉課長 佐藤美香、産業建設課長 秋葉敏郎
総務企画課主幹 観世安司、総務企画課主査 藤澤弘子、総務企画課主事 三浦耀介
本所 地域振興課主査 飯野剛、政策企画課専門員 佐藤紘司
- 4 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 会長あいさつ 会長 百瀬清昭
 - (3) 支所長あいさつ 羽黒庁舎支所長 伊藤義明
 - (4) 意見交換
 - ① 鶴岡市国土利用計画（第二次）について
 - ② 令和4年度まちづくり未来事業について
 - (5) その他
 - (6) 閉会
- 5 会議資料
 - ・【資料1】 鶴岡市国土利用計画（第二次）案 概要
 - ・【 ” ” 】 鶴岡市国土利用計画（第二次）案
 - ・【資料2】 令和4年度羽黒地域まちづくり未来事業一覧
 - ・【付属資料】 令和4年度まちづくり未来事業の主な取り組みについて
- 6 意見交換会の要旨
 - ① 鶴岡市国土利用計画（第二次）について（政策企画課 説明）
 - ② 令和4年度まちづくり未来事業について（羽黒庁舎総務企画課主幹・産業建設課長 説明）

◎ 鶴岡市国土利用計画（第二次）案について（説明：政策企画課）

委員より質問・意見

【委員】

- ・今年の冬は大雪であり、手向地区の空き屋3軒が崩壊し、どの家も管理する人が不在でありました。
- ・雪下ろしについてですが、手向地区では一人1万7千円かかり、鶴岡の職人に依頼すると2万円と個人負担が大きくなります。鶴岡市で豪雪対策本部が設置されましたが、豪雪地帯への支援等はない

のでしょうか？人口減少の要因の中には「豪雪地帯」というのもあると思います。

【委員】

・鶴岡市はどうもコンパクトシティを目指しているような気がしてならない。羽黒地域の例をあげると、学校統合をして手向地区から泉地区に移り住み、そこが駄目なら鶴岡旧市街地に移るというように、そうすると行政としては、水道の整備や交通の便を考えなくて良くなり、コストが安くなるということでコンパクトシティという考え方になっているような気がしております。

国土利用計画（第二次）案に、「コンパクトな市街地の維持」と書いてありますが、コンパクトシティを目指すものなのかお聞きしたいです。

・鶴岡市全体の治水計画について、山の上から赤川・最上川・海に至るまでの流水調査はどのようになっているのでしょうか？無計画な土地利用をすれば必ずと言っていいほど洪水は起こります。我が手向地区も山の上でなぜ洪水が起きるのか？原因は田んぼを潰し、建物やグラウンドを作ったことから洪水が発生しているものと考えられます。

事務局より回答

【回答：政策企画課 佐藤紘司】

コンパクトシティについて、拡大を抑制するコンパクトな市街地の形成と、資料（案）の5ページにあります各地域の中心と結ぶ多極型ネットワークとして都市の形成を行っていくこととしております。全てを鶴岡の中心市街地に集約するわけではなく、多極型ネットワークのコンパクトな都市形成を目指すということで、都市計画マスタープランなどで、今後の方針について検討して参ります。

また、洪水対策に関しましては、具体的な記載はないのですが、9ページに流域治水として鶴岡市全体の治水対策を考えていくことが重要という事で、今回新たに計画へ盛り込んで整理したところです。

【回答：羽黒庁舎総務企画課 観世安司】

豪雪対策・支援については、現在は高齢者のみの世帯等への雪下ろし補助はありますが、それ以外の補助については財政事情からしてもなかなか難しいと考えております。ただ、今年のように雪が多かった場合については、除雪の回数を増やすとか、排雪を実施するとか、地域全体の社会的基盤の確保について、対策本部を設置し行っている状況でございます。

委員より質問・意見

【委員】

・鶴岡は広く、羽黒以外にも温海や藤島等と魅力的なものがたくさんあって、どこに行ったらいいのかと感ずることがあります。先日ラジオで聞いたのですが、東根の小学校では地域のいいところを絵ハガキにして出しているそうです。とても良いなと思いました。

・鶴岡には結構シャッター街があるので、シャッターをペイントするイベント等を開催して人を呼ぶのも良いかなと思いました。

【委員】

・委員の意見にちょっと似ていますが、地元に住んでいても地元のことを結構知らないということが、

昨年松ヶ岡開墾場に行つてすごく感じました。

・今一番感じているのは、農業を支える若者が少なくなつてゐることです。産業の基礎は農業だと思つていますので、何か支える手立てが必要だと思つています。

・私たちが若いころは、青年団等があつて交流してゐましたが、今の若い人達は横のつながりがなつように思つえます。何か魅力的な催し物があれば若い人達の参加が増えるのではないかと思つています。

【委員】

・民生児童委員をしてゐますが、今年も大雪で心配しました。高齢者で一人暮らしの世帯にはお手紙を書いたり、電話をかけたりして安否の確認を行つてきました。

・屋根の雪下ろしは均等割りの付いてゐない非課税世帯しか該当しないわけですし、補助額は最高でも1万6千円が限度です。1回の雪下ろしで5万円～7万円もかかり、それに対して1万6千円ですから、それが何回もあると考えると悲鳴をあげたくなります。

【委員】

市街地の形成という事で資料の概要にもあるように、公共設備を整備するといつた中で、文化会館(タクト)は市街地に建てる必要はあつたのかと未だに思つています。東北一の面積を有してゐる市でありますので、旧町村にも公共施設を拡大していつたらいかかでしょうか。市の均等な開発が進んでいくと思つています。特に羽黒町には公共的なものが多くないと思つていますので、検討していただければと思つています。

前回の会議で「集落の再編」について発言しましたが、説明不足があつたのでこの場をお借りして補足させていただきます。集落再編については、市が主体的に行うものではなく、集落・住民から人口減少に伴つて役員の手が足りない、運営が大変だ、といつた声がかかつてこそ政策が成功するものと思つています。何年後になるか分かりませんが、行政主体でやるものではないと思つています。

【委員】

昨年は、松ヶ岡開墾150年ということで皆さんから色々ご支援ご協力をいただきありがとうございました。コロナの影響もあり計画してゐた事業の延期や中止等ありましたが、本当にありがとうございました。

国土利用計画について、身近なところと言うと資料の現状と課題にあるように、人口減少から始まり、集落から離れていく家庭も何軒かありました。そうすると、農地や宅地がそのまま残つてしまつ、荒れてしまつ所もあちこち見られます。個人の所有地をどうにかすることはできないので、大変な課題だと考えてゐます。羽黒地域は農地が多いのでそこを整備・活用できれば良いと思つてゐますし、若い人たちでひまわり畑を作つたり等活用事例もあるようですので、そういったアイデアが出てきたらいいのかなと思つてゐます。

松ヶ岡は開墾地であり、他の集落と若干違つてゐて、杉林や雑種地といつた個人所有ではない土地が多くあります。そのような土地に手をかけないと将来大変になりますし、お金もかかります。昔のように集落総出で伐採等をするのも難しいですし、杉林や里山の整備だけではなく地域全体の整備に対する支援があればいいなと思つています。

【委員】

国土利用計画についてはこの指針でいいと思います。観光の立場から思うこととして、羽黒町には観光客が集ってお土産を買える大きな産直や商業施設がありません。大きな観光地には大きな産直や道の駅があったりして、そこに立ち寄ってお土産をたくさん買っていきます。また、そこを目的地にして観光地を回るというパターンも多いと思います。ですから、羽黒町にも大規模な商業施設が羽黒街道沿いにひとつあってもいいのではないかと思います。

国土利用計画には、コンパクトシティという大きな指針があって、それを目指すという事には私も賛成ですし、コンパクトにできるのであればそれにこしたことはないと思います。しかし、考え方はコンパクトで良いのかもしれませんが、東北一の面積を持つ鶴岡市なのでスケールメリットを活かした施策というのを観光以外の分野でも考えなければいけないと思います。

県外の方に鶴岡市の自慢をする際は、「8月になると月山で夏スキーをして、1時間で降りてきて湯浜海岸で海水浴ができる。こんなところは日本を探してもないよ。」と自慢しております。国土利用的なことはコンパクトで良いのかもしれませんが、スケールメリットを大いに生かしていただけたら良いと思います。

事務局より回答

【回答：羽黒庁舎支所長 伊藤義明】

皆様からたくさんのお意見を頂戴しました。今年は豪雪でしたので、雪の話題はかなりあったのかなと思います。市の予算では、除雪費が足りなくて補正を何回も組んだ状況です。個人の方への支援でございましてかなりの予算が必要となり、そこまで手が回っていないという状況であると思っております。この点につきましては、地域の方々からご協力をいただきながらやっていくしかないと思っております。

委員より質問・意見

【百瀬会長】

藤島の自治振興会では、共助の活動として除雪事業に取り組んでいると聞いたことがあります。羽黒でそのような活動は行っていないのでしょうか。(委員へ)

【委員】

手向は雪下ろしを行う組織があり、商売として実施しております。そこでボランティア団体を作ると、商売の邪魔をしてしまうことになるので慎重に考えなければいけないと思います。しかし、雪下ろしで困っている家庭はたくさんあると思います。自治振興会(手向地区地域活動センター)に貸し出しできる除雪機があり、小路の除雪等で借りていく人もいます。

除雪の問題についてはこれから検討していきますが、鶴岡市内から建設業者を呼ぶと1人2万円だそうです。手向はだいたい1万7千円が相場です。若い人がいないのでボランティアできるか分かりませんが、手向には大工さんが10件くらいあり、その若手の方々がすごく役に立っていました。

事務局より回答

【回答：羽黒庁舎総務企画課 観世安司】

委員の雪下ろし等に関するご意見につきましては、個人負担も大きく事情もよく分かります。しかし何度も言うようですが、市全体で限られた資金をどこに振り分けるかと考えたときに、現在のやり方しかできないという事情をご理解いただければと思います。

委員の集落統合のご意見につきましては、やはり行政側で手出しできないということもありますし、人口減少で集落機能の維持が保てなくなるのか、まだいけるが今のうちに統合したいのか等といったことに関しまして、そこに住んでいる方々のお考えが一番で、行政でお手伝いできることがありましたらご協力させていただければと思います。

◎ 令和4年度羽黒地域まちづくり未来事業について（説明：羽黒庁舎総務企画課・産業建設課）

委員より質問・意見

【委員】

No.3の手向地区地域通貨導入チャレンジ支援事業にすごく興味があります。これから益々高齢化が進んでいく中で、日常の暮らしにお店屋さんとの繋がりができればいいと感じました。「うけたもう通貨」という名前も魅力的です。

【委員】

今年の1月に手向地区の門前町がまちなみコンクールで受賞した内容についてお話を聞きました。手向地区も素晴らしくなりました。老人クラブの活動では、羽黒山バイパスとの分岐点に花壇を作って花を植えております。その分岐点付近に、農協のガソリンスタンド（現在は営業していない）がありますが、そこを町で買い上げ、手向地区の宿坊街の入口が分かるような大きい看板を建ててみてはどうか。また、そこを立ち寄れる場所としても活用してみてはどうか。

【委員】

大鳥居周辺花いっぱい事業とは、十文字の道路島で行っている事業のことでしょうか。大鳥居周辺より十文字交差点という名称に変えた方が分かりやすいと思います。

門前町手向花いっぱい事業は、昨年度で終了だと思っていましたが、今年度も継続してやると聞きました。集落内では水やりや維持管理が大変との意見をいただいておりますが、観光客を迎え入れるには、価値のある事業だと感じております。

一覧には載っていませんが手向地区の道路について、観光協会の理事会でも発言しましたが、羽黒電器の十字路から養清坊までの間について予算が付いたと聞きました。観光ガイドとして宿坊街のまち歩きをしていると、お客さんから「道路が傷んでいる」と言われることもあります。道路の状態をみればその都市の文化水準が分かると言われておりますので、今後も継続して計画的に道路整備をしていただければと思います。また、交通安全の面で、ドットラインやセンターラインも所々しか引かれておりませんのでよろしく願います。

事務局より回答

【回答：羽黒庁舎産業建設課 秋葉敏郎】

まちづくり未来事業の一覧で、一般会計予算の記載はないものとなっております。切削オーバーレイについては今年4月早々から工事着手し、羽黒電器の交差点から毎年200mずつ随神門に向かって計画的に実施してまいります。手向地区の道路整備については昨年度まで実現できませんでしたが、ようやく予算が付きました。

また、手向の冠水対策については令和2年度から手向の上の方から冠水対策工事を行っておりまして、令和4年度は黄金堂前の排水機能強化として施工いたします。

委員より質問・意見

【委員】

先ほど委員がスケールメリットという事を言ってくれました。治水に関してもスケールメリットとして、手向地区の一部だけを施工しても洪水被害は収まらないと思います。手向地区の小さな水路も含めたすべての治水経路を形にしてほしいと思っております。つぎはぎでの補修では将来的にどこかで歪が出てしまうので、市にお願いしたいのは、流水路を全部網羅している地図を作って欲しいです。ハザードマップより作成は難しいと思いますが、これからの備えが十分になると思います。

もう一点、私の夢ですが羽黒一小のグラウンドを駐車場にして、バスの発着所にしたら良いと思っております。併せて、庄内交通は月山8合目までのバスが土日しか出ないとのことなので、市のバスを走らせる構想も良いと思います。羽黒一小のグラウンドを駐車場として整備し、バスの発着所とすることで、手向の街中や月山8合目の駐車場も混まないのではないのでしょうか。

【委員】

手向地内の駐車場ですが、コロナ前になりますますが全然足りなくて、宿坊の駐車場も全部急遽お借りするような状況でした。当日にあたふたと駐車場を探すのではなく、勝木委員がご提案したように、羽黒一小の駐車場をもっと広げて、そこから歩いていけるようにすれば良いと思いますし、月山8合目までのバス発着所という考えもすごく良いと思います。

観光面のNo.6、7、10で、精進料理の魅力発信事業についてすごく応援しているのですが、精進料理のPRに加えて、精進料理を食べ歩きできるような、精進料理のエッセンスが入ったグルメ・商品開発ができないかと思えます。しかし、商品開発となれば予算的に57万円ではなかなか厳しいと思えます。観光面では「食」も大きな分野になるので、検討していただければ魅力がまた一つ加わると思えます。

予算のことになるのですが、映画ロケへの支援30万円についてです。去年は5本の映画を撮影しております。北野たけし監督の最新作や、木村拓哉さんと綾瀬はるかさん主演の信長の時代劇等も撮りましたし、次回作もどんどん撮っています。この予算は、PRや撮影時に地元の産品や食材を使ったおもてなしや、差し入れ等に使っております。しかし、映画は1作品でスタッフが200人、エキストラが300人~350人で総勢600人くらいになります。今回は600人に庄内の「いも煮汁」を予算から振舞って出したのですが、600人に一杯500円だとそれだけで30万円になります。予算的に1本の映画分しか支援できませんでした。残りの映画の分はこちらの自前で全部出したのですが、PRをしたいという気持ちはありますので、予算的に厳しいのは分かりますが、全国的なPRと考えたときに、鶴岡か

ら発信できるひとつのエッセンスだと思いますので、検討していただければと思います。

【委員】

委員の話しですが、聞いてみないと分からない事でした。今まで全然知らなかったもので、地元の方とタイアップして実施するのもありかと思いました。

松ヶ岡の周辺環境整備については、2，3軒個人宅もあり家の前を観光客が通るため、その方々は家の前をきれいにしておかなければいけないのかなと思いました。今回の整備事業で家の前の道路もきれいになるという事なのでいいなと思います。

【百瀬会長】

羽黒山スキー大会は、今現在同じ名前でスキー大会があるのですが。事業自体は学校で事務局を持つという事なのでしょうか。予算を付ける際に体育協会に相談はありませんでした。

事務局より回答

【回答：羽黒庁舎総務企画課 観世安司】

委員からお話しありました、予算を拡充してほしいという意見や、お土産を買う場所、羽黒一小的のグラウンドの活用でありますとか、委員の皆様から色々な意見をいただきました。まちづくり未来事業の一覧表を見てもわかる通り、数年前からあまり変わり映えのない内容となっております。事業を変えるためには、委員の皆様からご意見を聞いて、こちらで考えさせていただければと思います。我々だけでは色々な発想ができにくくなるものですから、今後とも皆様よりご意見を頂戴できればと思います。

【回答：羽黒庁舎産業建設課 秋葉敏郎】

学童スキー大会は元々小学校が主催で開催しておりました。今回、教育委員会からの補助金がなくなるという事で、なんとか補助金を出していただけないかと校長先生から相談があり予算化したものです。

大会の運営については、行政から行政へ補助金は交付できないため、学校側でPTAと組んだ実行委員会のようなものを作っていただきたいと話をしたところ、学校では対応できないと回答があり実行委員会等について検討しているところです。